

# B2 課題解決型談話の相談局面における確認要求表現の連鎖構築 (予稿集) 一 日本語母語話者と中国人上級日本語学習者を対象に

王詩凝 (広島大学大学院生)

## 1. 研究目的

・課題の解決を目指して合意を形成するために、互いに意見調整を行う場面がある (大和, 2009) その中で、決定案の実施のために、案の詳細内容について相談することが重要

・「共通基盤の構築」のために、「よね」「じゃな  
いか」「だろっ」が用いられる (伊藤, 2019)

？ 課題解決型談話の相談局面において、日本語母語話者と中国人上級日本語学習者はそれぞれどのように確認要求表現を用いて連鎖を構築するか

## 2. 先行研究

・母語話者は二者択一の問いかけや疑問文および「よね」を用いて、提案の判定要求という自発型の連鎖構築 (榎本, 2000)

・母語話者は上昇調で案を提示したり、「よね」によって自らの案の正当性を主張したりすることで、相手の意見を引き出すのに対して、学習者は「か」で提案内容の大枠を提示したり、「かな」で同意を示したりする (伊藤, 2019)

・母語話者は限定的提案の前に非限定的提案を重ねる傾向があるのに対して、学習者はいきなり限定的提案を行う傾向がある (大浜, 2000)

## 3. 分析の枠組み (具体化の仕方によって再分類)

【限定型】：双方の意向に沿った内容であるかどうかを確認しつつ、提案を段階的に絞り込む

【深化型】：前件の具体化と関連づけて後件の具体化を行う

【展開型】：双方が持つ情報・知識について確認し合い、提案内容を広げる

主要参考文献

伊藤亜希 (2019) 「英語を母語とする日本語学習者の合意形成談話の特徴―「提案一応答」の拡張に着目して―」 広島大学博士学位論文  
大浜い子 (2000) 「日本人学生と外国人留学生における合意形成過程の比較」 『広島大学日本語教育学科紀要』 10, 65-71  
榎本綾子 (2000) 「人間関係からみた課題解決の会話の連鎖構築」 『世界の日本語教育』 10, 221-239  
大和祐子 (2009) 「意見の一致を目指す会話における意見交渉の過程―意見が異なる者同士の「歩み寄り」の始まりを中心に―」 『言葉と文化』 10, 59-75

## 4. 結果と考察

母語話者：【限定型】 (12回) > 【展開型】 (7回) = 【深化型】 (7回)  
学習者：【展開型】 (10回) > 【限定型】 (5回) > 【深化型】 (1回)

### 【限定型】母語話者

NS2：なので、(うん) 朝から出たほう

がいいよね。〈上昇調〉

NS1：そうやね、せつかくやから。

NS2：どうする？ 8時は早い？

NS1：うーん、8時半かな。

NS2：9時にしようか。

NS1：9時ぐらいでもいいかな。

NS2：じゃあ、9時に西条駅出て。

### 【展開型】母語話者

NS4：ラウンドワンに行ったとして、

昼ぐらいに終わるよね。〈上昇  
下降調〉

NS3：まあ、10時ぐらいに行っただとし

たら、(うん) まあ3時間遊んで、

1時。

NS4：1時やろっ？ で、平和公園に

行って、原爆ドームに行って、帰る？

NS3：うーん、まあ、この広島城のこ

の演舞、(あ、そっか) 縮景園

もいいけど、どっちか1つを選ば

うよ。広島城か、まあ縮景園が、

そのイベント。

### 【限定型】学習者

NNS1：じゃあ、5時ぐらいで、あるいは、

NS17：4時とか？

NNS1：3時ぐらいに帰る？

NS17：まあ、疲れたら帰る？ 見終わったら帰る？

宮島の観光をしてから。

NNS1：でも、1時間で宮島から広島まで行け

る、っていうか、

NS17：いや、もう、宮島自体は40分ぐらいじゃ

ない？ 広島から広島まで40分ぐらいで、た

ぶん西条から広島まで40分ぐらい。まあ1

時間ちよとくぐらいで着くと思う。

NNS1：あー、そうですね。じゃあ、たぶん5時

か4時ぐらい。

### 【展開型】学習者

NNS16：えーと、そうですね。午前中はどうす

かな。行く途中は市内を通過するんです

よね。〈上昇下降調〉

NS48：うんうん、そうですね。一回市内に出て、

また宮島？

NNS16：うーん、どうやって手配したら一番手が

かからないんだろう。

【限定型】：母語話者には、「提案」の位置で「よね」が多用

学習者には、「提案」の位置で上昇調の疑問文が多用

【展開型】：母語話者には、「よね」で情報確認が行われた後自ら提案が導入

学習者によって「よね」で情報確認が行われた後、母語話者によって提案が提示